

在の「北24条西16丁目」は「中新川」、「新川通り」は「新川」、「新川1条4丁目」は「北新川」となっていました。

名称のみならず行政区の変更もありました。新川は琴似町の一部でしたが、昭和30年(1995)に札幌市に琴似町が組み込まれることで、札幌市琴似町新川となりました。琴似町の札幌市への合併には、賛成と反対の両方の意見があり、激しい討論が行われたという記録が残っています。

そして、昭和47年(1972)に札幌市が政令指定都市になるのに伴い、札幌市北区新川という現在の形になったのです。

✳入 植

新川地区には、どのような人達が入植し、また、どのように開拓されたのでしょうか。

『さっぽろ文庫33 屯田兵』にその詳細をみることができます。新川地区には、屯田兵と一般移民が入植してきました。

屯田兵は、いわゆる戊辰戦争で徳川方についた藩の藩士とその家族です。例えば、明治24年(1891)には「富山県→札幌村→新川」、明治25年では「石川県→岩見沢→羽幌→新川」という経路で移動してきたという記録が残っています。屯田兵は一般移民よりも条件が良かったようですが、それでも生活は厳しく、定着率は2割程度。一般移民の定着率は更に少なかったことでしょう。

では、屯田兵と一般移民の間に問題は生じなかったのでしょうか。『琴似屯田百年史』には、屯田兵の方が階級が高く、一般移住者は苦渋を舐めた、という逸話が載っていますが、生活者として、病気・葬式・排水溝を掘るといった時には助け合ったようです。お互いに助け合わな

ければ生きていけなかったのでしょうか。

✳農 業

新川地区では、かつてはどのような農業が行われていたのでしょうか。時代によりその変遷をみることができます。

明治時代は、実験的に主にソバ・バレイショ・牧草・エンバク・大小豆・自家用トウモロコシが栽培されていたようです。それが、大正になると牛の餌となるエンバクはそのまま栽培され続けますが、ユリ根・ハクサイ・ダイコン等の野菜が栽培されるようになります。昭和になると、エンバクの栽培は続けられていましたが、更に野菜の種類が多くなり、ニンジン・キャベツ・アスパラガスなども栽培されるようになりました。

明治の入植以来作られ続けていたエンバクは、サイロに保管され、そこで発酵し、冬の牛の飼料となりました。現在では、新川4条17丁目にある「サイロ公園」という名称に、当時の名残を見ることができます。

✳新川開削後

現在では、カモやサギといった野鳥が泳ぎ飛び交い、時にキタキツネやコノハズク(小型のフクロウ。筆者が一度だけ目撃。臆せずノッシノッシと地面を歩いていました!)にも出くわし、魚が飛び跳ねるのを目撃したりもする清流新川ですが、災害や汚染が大変な時期もあったようです。

(1)水 害

『新川郷土史』には、「明治40年頃には、半日ほどの雨で川の水が溢れ、あわてて畳をあげるとことが年によっては何度もあるものだから、だんだん人々が逃げ出していった」とい

う記述があります。天災的な水害は、上流よりも下流域に多かったようです。

そこで新川大改修の必要性が高まりました。そのような中、昭和24、25年（1949、1950）の水害を機に付近の人々を中心に何千もの署名が集められ、小樽市・琴似町（札幌市合併前）・手稲町（札幌市合併前）・道庁に何度も陳情し、ついに昭和28年（1953）から改修工事が始まりました。

最初の新川は、幅が狭く、岸から深く掘り下げたため深さもかなりあったようですが、大改修により現在の姿になりました。

(2)汚染と克服

『新川郷土史』によると、新川の汚染は大正10年（1921）の北大医学部付属病院の開設に始まります。

新川上流には札幌畜産公社の屠場や雪印乳業の皮革工場・骨粉工場がありました。それらが解散する昭和36年（1961）年ごろまでは動物の血が川に入って赤い水が流れ、悪臭に悩まされたようです。また、北大から新川地区の間に、戦時中の半年ほどではありますが、札幌市が、し尿だめ槽を作り、汚物が流れ出したという時期もありました。

現在では、水質が改善され美しく自然あふれる新川です。私達は、公害を克服したと言えるでしょう。

※まちづくり

(1)世帯数の増加

屯田兵と一般移民が農地として開拓してきた新川地区。その後の歩みはどうだったのでしょうか。

『昭和二十七年 琴似町勢要覧』を見ると、居住戸数に関しては、明治45年から昭和27年

まで、25戸の世帯増加のみに止まっていたことが解ります。その要因の一つとして、農地の他へ転用が規制されていた地区であったことが考えられます。

新川地区の農地から宅地への転用の背景には、昭和30年代後半、札幌市の発展に伴う人口増加でベッドタウンのニーズが高まったことが挙げられます。宅地へ移行してからは、世帯数が急増しました。

(2)電 気

新川に初めて電灯がついたのは昭和6年（1931）10月のことです。新川十字街（第1町内会）と呼ばれていた場所の辺りのわずかに二十戸に電灯がつけました。そして、新川全域に電気が通ったのが昭和27年（1952）年。札幌市で一般に電灯が供給され始めたのが明治40年（1907）ですから、そこから45年の歳月がかかりました。

理由としては戸数が少ないため電力会社の規定外の工事となり、その電柱を含めた負担は受益者個人負担になったこと。また、札幌線（現在の学園都市線）の線路を超えるには背の高い特別な電柱が必要であったことが考えられます。

兎に角、現在の電気供給は、先人達の自己負担があつてのことなのです。

(3)上下水道

新川の川筋の住民は入植以来川水を用水にも飲み水にも使用してきました。しかし、先述したように、大正10年（1921）に北海道大学付属病院が開設されると、病院の汚染水が新川に流れ込むため、川水は飲めなくなってしまいました。そのため、家庭では手押しポンプで地下水を汲み上げるようになりましたが、水質は良いものばかりとは言えなかったようです。

新川地区に上水道が入ったのは、昭和47年(1972)。平成元年(1989)11月には、新琴似にある市水道局北営業所の敷地内に緊急貯水槽が設置され、地震などの災害時や水源地からの給水がストップした場合でも、一時的に一定戸数に限られますが、緊急の給水が可能となりました。

新川地区の下水道施設は、昭和48年(1973)に整備が始まり、昭和50年(1975)9月に、第一町内会を含む地域から施行されました。なお、新川中央地区の町内会の境界線は下水道の区画からきています。ですから、第七町内会と第六町内会の境界は道ではないのです。

(4)連絡所

現在の「新川まちづくりセンター」(新川地区会館内)の前身、新川連絡所ができたのは、札幌市が政令指定都市になり区制が施行された一年後の昭和48年(1973)のことです。それまで北区役所まで行かなければならなかった行政上の手続きの多くが、近くの連絡所で済むようになりました。また、他にも、札幌市からの諸連絡がよりスムーズに行われるようになり、連絡所は私達の町内会活動にも密接に関わっています。

役所がまちにやってきた瞬間でした。

(5)交番

戦後間もなくの頃、新川になんと泥棒が出没。そこで自衛のために、毎晩夜回りが行われました。

この状況を自治体警察に訴え、駐在所設置を陳情した結果、巡查一名が駐在所することになりました。それが、昭和21年(1946)のことです。しかし、駐在所を新たに建設することはできません。そこで新川青年倶楽部(会館)の一部を仕切って駐在所のお巡りさんに使ってもらうこと

になりました。これが新川地区と警察の関わりの始まりです。

現在新川地区には、新川交番と新光交番の二つの交番があり、私達の生活の安全に寄与していただいていることは、言うまでもありません。
(6)バス

新川にバスが初めて走ったのは、昭和25年(1950)。新琴似環状線でした。せっかく通ったバスですが、乗客が少ないと廃止になってしまいます。そこで「バスに乗ろう」が合言葉。町内会役員は用事が無くても、業務のように一日に一度はバスに乗ったと伝えられ、バス路線が廃止されると通勤に困る駐在のお巡りさんも宣伝に協力してくれました。その甲斐あって、バス路線は延長され、本数も増えました。

現在、バスの運行は市営バスから中央バスやJRバスに経営が移りましたが、バスは私達の生活を支えています。

(7)J R

昭和9年(1934)に、国鉄の札沼線(現在の学園都市線)が開通しましたが、新川地区の住民にとっては、ただ通り過ぎていくだけの、鉄の箱でした。新川駅が無かったのです。

駅員のいない新川臨時乗降場が新設されたのは昭和61年(1986)のこと。ようやく新川の住民が鉄道を利用できるようになったのです。背景として、札幌市のような人口増加が激しい都市では、駅間距離が長い地域に中間駅の設置が望まれるようになったことが挙げられます。但し、当時は一面一線(単線)でした。翌年、国鉄が民営化され、JR北海道が誕生。それに伴い臨時乗降場は駅に昇格し、無人の新川駅となりました。

平成3年(1991)、ついに無人駅だった新川駅に駅員が常駐することになり、それに伴い木

造平屋建ての駅舎が建造。その後、路線の高架化が進み、平成11年（1999）に、新川駅は高架駅（1番ホーム側のみ暫定開業）となり、翌年に新駅舎が完成。相対式2面2線となって、現在の複線となったのです。

現在のJR学園都市線は本数が増え、新川駅も使いやすくなり、便利になりました。まちの発展と一緒に発展した新川駅とJR学園都市線です。

(8)町内会発足

現在の新川さくら並木連合町内会の前身は、明治時代にすでに存在していた「西牧場部落会」です。現在の町内会活動に通じる清掃や消防、出産や葬儀といった互助活動などを行っていました。「西牧場部落会」は、昭和36年（1961）に、「新川町内会」（新川西地区にある新川町内会とは別組織）に改名します。その背景には、すでに宅地化が進み地名と現実（牧場ではない）が合わなくなったことが挙げられます。それが昭和40年（1965）に「新川中央町内会」に改名。新川に沿って細長く広がる新川地区において呼称の紛らわしさを避けるための改名でありました。「中央」という呼称が付加されたのは、すでに、琴似八軒地域が「琴似中央」と名乗っていた影響があった可能性があります。

また、これに並行して新川西地区に新しい町内会が発足します。昭和37年（1962）に新川公園町内会発足、昭和42年（1967）に部有地部落会が新川町内会に改名、同年、新川西札幌町内会が発足しました。

そして昭和42年（1967）に新川中央町内会・新川町内会・新川西札幌町内会・新川公園町内会が連合し「新川連合町内会」が誕生したのです。

新川中央町内会は、世帯数の増加から、昭和

45年（1970）に、「新川第一」「新川第二」「新川第三」「新川第四」「新川第五」「新川第六」「新川中央第七」「新川ポプラ」に分かれました。その後も新川地区では、新たに「新川第八町内会」「新川東町内会」「新川みどり町内会」が誕生しています。

「新川連合町内会」が、現在の「新川さくら並木連合町内会」に改名したのは、記憶に新しい平成26年（2014）のことです。連合町内会の名称に「さくら並木」が付加されました。それだけ新川のさくら並木は私達郷土の誇りであるのです。

✳環境衛生部

新川地区の町内会活動の歴史は長く、活動も盛んですが、その中でも、非常に歴史の古い専門部があります。それは、環境衛生部です。明治33年（1900）には、現在の環境衛生部の前身である琴似村衛生組合が設立され、衛生検査の施行と立ち合い、種痘接種の徹底、トラホーム（衛生状態の良い場所では滅多に起きない目の病気）、伝染病発生防止を行っていました。衛生検査とは、検査官が各家庭を回って衛生状態をチェックする検査で、それに合格するために、各家庭では晴天に畳を戸外へ持ち出して大掃除をしていたようです。

昭和23年（1948）に琴似村衛生組合は新川衛生協会へと変わり、昭和30年（1955）には、琴似町が札幌市と合併したことから新川地区衛生協力会が設立されました。そして昭和51年（1976）、連合町内会環境衛生部として組織されたのです。

つまり私達の暮らしは、ずっと環境衛生の面で守られてきたのです。現在、日本においては世界の不潔な地域に発生する病気がほとんど見ら

れなくなりました。これも、行政と地域の環境衛生に尽力して下さった先達のおかげだと言って過言ではありません。

(9) さくら並木

桜は日本の国花です。桜の花と日本文化は切っても切れないほど。絵画や映画から日々使う食器や文房具に至るまで、桜の花はよく描かれます。そんな桜ですから、日本各地に植樹され、有名な桜並木も多々ありますが、新川の堤防沿い7.5km、延長上の手稲区側3kmと合わせて総延長10.5kmの直線の桜並木は、日本のみならず世界でも例を見ないでしょう。他にも総延長が長い桜並木はありますが、直線ではありません。つまり、新川の桜並木は、人工河川に更に人の手を加えて作られた、人の熱意と努力の結晶なのです。

昭和51年(1979)、老人クラブが新川沿いに桜の苗木10本を植樹しました。しかし、当時の河川法では堤防への植樹が禁止されていたため、残念ながら、それを撤去しなくてはなりま

せんでした。それが平成9年(1997)に河川法が改正され、堤防への植樹が可能になります。

法的に植樹が可能になると、一気にさくら並木構想が具現化しました。当時の我が第七町内会坂田好男会長(当時、連町会長・緑化推進協議会会長。現在、第七町内会顧問)へ第一町内



会の宇山ビューティーサロン社長から、桜の苗木寄贈の申し込みがありました。その他、さくら並木のために、地域住民や企業から、2,800万円ほどの寄付が集まったのです。その資金で、桜の苗木を購入、植樹、管理と現在へとつながっています。

このさくら並木に因んだ行事も誕生しました。「新川クリーン作戦」「ウォーキング大会」、ライトアップした「夜桜」に「音楽祭」。「音楽祭」に関しては、あまりに好評であり、新川地区以外の住民も多数訪れるようになりました。そのため、会場であるサンプラザホールの収容人数を大幅に超えてしまい、消防法に抵触し開催様式の変更を余儀なくされましたが、現在「新川ジモトライブ」として、形を変えて引き継がれています。

その他、平成13年(2001)には、佐藤幸雄作詞、天満美憲補作詞、久米由光作曲により、記念歌『新川「さくら並木」のうた』が完成し、新川さくら並木連合町内会の様々な行事において、歌いつがれています。

更に、平成27年(2015)には、新川さくら並木連合町内会のマスコットキャラクターを決めるべく、コンペティションが催され、応募された作品の中から、池田千夏さん(応募当時、新川小学校4年生)の作品、「ちえりばー」が選ばれました。新川の「川」の字とさくらの花をモチーフにデザインされ、名前は桜の花を意味する「cherry blossoms」と川を意味する「river」を合わせて考えられました。



現在、新川地区会館の玄関で私達を出迎えてくれ、何かの行事の度に登場してくれます。

II 新川中央第七町内会

✳️入植から町内会発足

第七町内会の開拓の祖、山田嘉一郎氏は明治に來道したと思われませんが、それを裏付ける資料は残っておりません。山田嘉一郎氏は富山県出身で、新川入植以前は八軒地域の新川寄りに居住されたようです。

山田嘉一郎氏の四男、山田豊氏は、現在の新川1条6丁目に無住の屯田兵屋を模した木造の家屋を借りて、小作料(年貢)を払いながら、半畜半農の生活を始めました。そして昭和30年代後半に土地開放があり、農地が宅地へと変化していきます。この時、業者に任せきりではなく、山田豊氏ご本人が、先々のことを考えて宅地整備を行ったのです。

人の移入は、昭和35年(1960)に山田豊氏が売った684坪(2,141㎡)に、秋山愛生館が社宅を立てたことが契機となります。そして、島津組が建売住宅の建設分譲を始めたことで、一気に戸数が増えました。昭和40年頃の第七町内会の戸数が25戸だったのに対し、3年後の昭和43年頃には200戸に達するほどとなり、現在はおよそ300戸余りの世帯が居住しております。

では、生活するのに必要な道路は、どのようにできたのでしょうか。第七町内会の道路造成は、昭和38年(1963)に山田豊氏が私費を投じて始められました。道路に敷いた火山灰は車が入るとドンドン沈むので、大型ダンプで碎石や玉石を60台ほど入れて整地。しかし一雨降ると元に戻ってしまう。だから再び石を入れる、

という作業の繰り返しが5年ほど続いたようです。そして、札幌市による道路改良とその他の行政施策を期待して、昭和45年（1970）、山田豊氏は自ら作った道路を札幌市に寄付されたのでした。この功績から、山田豊氏は翌年に紫綬褒章を受章されています。

第七町内会の町内会としての発足は、前節の「まちづくり（8）町内会発足」で記述したとおりです。

昭和43年（1968）、当時、新川中央町内会の中にあった、それぞれの集落で分区制を敷くことになり、第九分区として誕生したのが、第七町内会の前身です。初代分区長は、山田豊氏であり、昭和45年（1970）四月の新川中央第七町内会発足時には、初代町内会長も務められました。

また、町内会旗も山田豊氏ハツエ氏夫妻による寄贈です。会旗は新川中央第七町内会の「新」「中」「七」を表し、回りの3本の六角形は新川の流れを象徴しています。



※これまでの主な事業

では、第七町内会が行ってきた主な事業を紹介しましょう。

昭和45年（1970）：第七町内会創立の年から町内会単独で盆踊り大会実施。その後、新川中央地区納涼盆踊り大会へと発展。

昭和46年（1971）：町内会が山田豊氏の所有地を借り、地代金を支払い、自力で新川第七公園（現在の新川ちから公園）を造成。市から一部補助を得、町内会有志がそれぞれ遊具を寄贈して完成。

昭和53年（1978）：渥美自動車工業敷地内に廃車バスを改造した集会所を造り、町内の諸会合に利用。

昭和55年（1980）：創立十周年記念夏まつりを実施。子ども神輿・演芸大会・売店の設置等、全て手造り。近隣を含め延べ二千人の人出で賑わう。この後、十五周年記念に夏祭り、二十周年記念に秋祭り、二十五周年記念に夏祭り、三十周年記念に夏祭り、三十五周年記念に式典を行っている。

昭和57年（1982）：すずらん公園完成

平成7年：新川中央第七町内会館落成（創立25周年記念事業）

その他、年末子ども餅つき大会、秋のジンギスカン大会・日帰りパークゴルフ温泉バスツアー、町内の定期清掃など、継続して取り組んでいます。

※ちから公園

昭和46年（1971）、町内会が山田豊氏の所有地を借り、地代金を支払い、自力で新川第七公園（現在の新川ちから公園）を造成しました。

当時の町内会会長は大江政敏氏であり、第七町内会には200戸ほどの世帯が居住し、子ども

の数も増えていました。そこで、空地になっていた山田豊氏の土地、650㎡を借り、父母達の労働奉仕で、整理や砂場づくりなどを行い、新川児童公園第一号を作り上げたのです。札幌市からの助成金もありましたが、当時かかった費用は80万円。係わった方々の頑張りが目に浮かびます。

ブランコ・ジャングルジム・鉄棒などの遊具は全て新しくカラフルで、子ども達は大喜びであったようです。それが四年後に札幌市に移管され、「新川ちから公園」となりました。

第七町内会の方々の子ども達を愛おしむ思い、そして公園造成を行動に移す熱意があつてこそ完成した公園を、今後も大事にしていきたいと思ひます。

※町内会館

我が第七町内は、最初は町内会長のご自宅で会合を行っていました。次に、渥美会長の時、昭和53年（1978）に渥美自動車工業敷地内に廃車バスを改造した集会所を造り、町内の諸会合に利用していました。



しかし、平成7年（1995）、バス集会所立ち退きに当たり、代替集会所が必要に。そして、丁度その頃、現在の町内会館にあった秋葉宅が

転出解体されることになっていたため、土地所有者の山田ハツエ氏から、この土地の町内会への無期限・無償貸し付けの申し出があつたのです。

建設費用は、町内からの寄付金4,468,600円（238世帯）の他、札幌市助成金2,290,000円、連合町内会からの寄付200,000円、町内会特別基金1,448,477円の合計8,407,077円の収入から支出されました。建設工事を担当した業者は以下の通りです。

本体：丸山山光建設（有）

内装：（有）インテリアフック

設備：（有）山本ガス

助勢：（有）モンジ建業

第七町内会は、決して世帯数の多い町内会ではありませんが、バス集会所しかり、独自の町内会館建設に、そのエネルギーと人々の心意気を感じないではられません。

第七町内会最長居住者 山田實さんへのインタビュー



第七町内会に一番長く住んでいると思われる山田實さんへ、かつての第七町内会についてインタビューをしました。インタビュアーは、本記念誌編集担当の今野です。

今野：子どもの頃の、一番最初にある記憶の第七町内会付近の様子を教えてください。

山田：第七町内は、牧草地と畑。畑で作られていたのは、牛の飼料のデントコーン、芋、大根、そういう野菜が多かったな。あとこの辺は道路も狭くて、道路沿いには池が片方あってですね、そこには葦やらヨモギ、それからクマザサがいっぱい生えていて……。その辺りにはキリギリスもいっぱい出ていたような気がします。新川も今みたいに広くなくて、大体、幅7メートルくらいあったのかな。実際の川の幅は3メートルくらいで、結構深くて、人が入ることはできない。そこで、人が亡くなっているのも聞いています。

今野：第七町内会は土地が低くて、堤防ができる前は水浸しになることがあったと聞いたのですが……。『新川百年』にも書いていたし……)

山田：第七というか、こっちの方はわりと低いんですよ。低いのは今で言う西新川の方。そっちの方は低くて、よく、ちょっと雨降れば水害ということがあってね。でも、こっちの方は、川も結構堤防が高くて、私の記憶では氾濫したことはないです。川の水面がぎりぎりまで来たことはあります。限界の1メートルぎりぎりくらいまで来て、「ああ、出るかな」というような、そういう時期も1回か2回あったような気がするけれども、七十何年生きているけれど、ここで水がもれて氾濫という記憶はないですね。

今野：(堤防が守ってくれたんだ!感謝!感謝!)

夏祭りを始めたのはこの町内の方からなんですか?

山田：夏祭りっていうのは、実質的なことは盆踊りだと思うんですね。盆踊りが夏祭りになっていったんだと思うんですけれども。ここで夏祭りは四十五、六年かな、四十年ちょっとのことだったと思うんだけれども、第七町内会の「ちから公園」のある所で、やぐらを組んで、町内の人に太鼓叩いてもらって……。あの時、多分、田村さんと菊池さんが太鼓叩いていたという気がするんですけれど……。そうしたら、各町内の方が来て盛大になって、うちで一杯飲んで、随分騒いでいたような、そんな気がしています。

今野：町内会館ができる前は、バスを使っていたと聞きましたが、その時の様子を教えてください。

山田：今は会館で、班長会議や役員会議を行っていますけれども、初めは各町内の会長の家で集まって班長会議とか、そういうのを行っていたんです。それが渥美さんが会長になられた時に、渥美さんの今の整備工場の一部に市のバスを譲り受けまして、それを改造して集会を行っていました。それがバスを使った始まりだと思います。

今野：これからの第七町内会にのぞむことを教えてください。

山田：うーん。難しいね。少子高齢化という今の時代で、若い人がいないので子供も少ない。そしてお年寄りばかりという形で、周りとの付き合いもだんだん無くなっているような気もするし。楽しみも、なかなかみんな遊ぶ機会も少ない。だから、顔も知らない人が結構いる。人の付き合いっていうのかな、町内としてのそんな広がりができればいいなと思ってるんですけれども、行事をするとしても、今ではなかなか集まらないというような現状なのかなと思ってるんです。

今野：どうもありがとうございました。

今野は、この話を聞いて、町内の方々が交流を持てる場を盛り上げるため、更なる努力邁進する決意をしたのでした。



年間行事ピックアップ

2020年・2021年はコロナ禍にあり、これまで脈々と続いていた町内会行事が中止に追い込まれました。けれども、コロナ禍にも終わりがあります。行事を通じて会員相互の交流を図り、子どもや高齢者の方々にも優しい、災害に強いまちづくりを目指しています。ここでは、いくつかの第七町内会行事を見ていきましょう。